



プロチームと市民がふれあう 癒やしの交流アンサンブル。

立川では、まちに根付いたスポーツチームが活躍の場を広げています。地域活動や交流イベントで選手を身近に感じることもできます。彼らは熱い試合で私たちを楽しませてくれるだけでなく、スポーツと市民交流を通じ、立川を盛り上げてくれています。

SPORTS × LOCAL ACTIVITY



ふれあい、感じるスポーツ魂 ～ 選手と市民が出会う場所 ～

地域活動

1

出張訪問授業

市内の小・中学校に出向き、実技講習を実施しています。プロ講師やスタッフの教えに触れることで、子どもたちが自ら“学びを得ること”を実践しています。

また競技への興味が湧き、よりスポーツを近い存在として感じられます。



地域活動

2

街イベントへの
参加

選手やスタッフは、試合やレースに並行して、地域のにぎわい創出を目的とした地域活動を行っています。イベントではゴールのシュートチャレンジや、身体能力を測定するものなど、さまざまな体験が用意されています。



VOICE

立川ダイス

Luke Evans (ルーク・エヴァンス) 選手に聞きました

Q. 立川のファンの印象は？

A. 立川のファンが大好きです。試合のとき、オレンジのTシャツを着て応援してくれるみんなの姿を見ると、エネルギーがたくさん湧いてきます。

Q. 立川で好きな場所は？

A. 国営昭和記念公園です。昭和記念公園は散歩をして頭をスッキリさせるのに良い場所です。花火大会を見に行くのも好きです。

Q. 市内のお気に入りの店は？

A. ^{ごちく} 伍楽とDANRAN亭です。どちらのごはんもとても美味しいので、ぜひ皆さんも行ってみてね。



立川ダイス
ルーク・エヴァンス選手

← MADE IN TACHIKAWA のスポーツチーム →



©ALVARK TOKYO

アルバルク東京

アリーナ立川立飛でホームゲームを開催している、男子プロバスケットボールリーグ(Bリーグ)1部の強豪チーム。



©TACHIKAWA DICE

立川ダイス

3人制バスケットボール「3×3」のプロチーム「TACHIKAWA DICE(立川ダイス)」は、立川商工会議所などが中心となり発足した地域密着型チーム。



©TOKYO VERDY BS

東京ヴェルディ
ビーチサッカー

Jリーグ東京ヴェルディのビーチサッカーチームとして、市内で活動中。現ビーチサッカー日本代表選手が複数在籍。



©Fuchu AFC

立川・府中
アスレティックFC

日本フットサルの最高峰である日本フットサルリーグ(Fリーグ)に所属するフットサルチーム。アリーナ立川立飛でホームゲームを開催している。



たちかわ
Blend

ART × DAILYLIFE

地域力と創造力が奏でる アートのハーモニー。

市内には、オフィスやまち全体を利用したアートスポットが点在し、日常に溶け込むアートを堪能することができます。さらに、芸術にふれることができるイベントや遊び心をくすぐるプロジェクトも多く行われ、訪れる人の感性を刺激してくれます。



感性とふれあう芸術基地・立川

芸術まちづくり

1

地域イベントとアートの連携

環境フェアでは、自然素材や使わなくなったものを使って工作やエコバッグ作りをしました。親子向けの地域イベントにアートの要素を融合することで、単に絵を見るだけでは得られない魅力を感じることができます。また、遊びを通してアートに興味を持つきっかけにもなります。



芸術まちづくり

2

学生主導のプロジェクト

平成29・30年度に武蔵野美術大学の学生と協働し、立川駅西地下道の壁面をアートで明るく、美しくする取り組みが行われました。ライブペイントや、デザインを考えるワークショップなどを通じて、まちとして一体感が生まれたプロジェクトになりました。



芸術まちづくり

3

立川芸術の情報発信

市内で行われる文化イベントや、市内在住のアーティストの活動などを「TACHIKAWA BILLBOARD」で発信中です。ホームページを運営する文化芸術のまちづくり協議会では、アートボランティア活動を楽しみながら専門性も身につけることができるアートサポーター養成講座なども開講しています。



VOICE

ファーレ倶楽部
松坂 幸江さんに聞きました


Q. ファーレ立川アートの魅力は？

A. 世界の有名アーティストの作品が、これほどの密度で置かれている街はほかにありません。イベントや関連グッズ、写真コンテストなど、まちに楽しいアイデアをもたらしてくれるファーレ立川アートの魅力は、一言では語りつくせません。

Q. おすすめの楽しみ方は？

A. カメラを持っていくのがおすすめです。作品に触ったり、座ったりすることもできるので、楽しい写真が撮れると思いますよ。夜になると明かりが灯る作品もあり、昼間とは違った雰囲気を楽しめます。

ファーレ立川アートを知り尽くす案内人
「ファーレ倶楽部」

ファーレ倶楽部は、作品の案内や清掃を行っているボランティア団体です。ファーレ倶楽部がガイドする「アートツアー」の参加者総数は31,000人を超え、市内外から注目を集めています。

—〈 驚きと発見が連鎖する「ファーレ立川アート」〉—

世界36か国92人のアーティストによる109点のパブリックアート「ファーレ立川アート」。

作品に触れたり、座ったり、聞いたり、五感を刺激するものばかり。国内外からも多くの人を訪れています。



▲「会話」
ニキド・サンファル



◀「オープンカフェテラス」
ジャン＝ピエール・レイノー

「最後の買い物」
タン・ダ・ウ▶



▲「オブジェ(見知らぬ人)」サンデー・ジャック・アクバン

たちかわ“豆”知識


まち歩きが楽しくなるアプリ
「ファーレ立川アートナビ」

ファーレ立川の作品を分かりやすくガイドするスマートフォン・タブレット端末向け無料アプリを配信中。気になる作品の位置や説明を表示し、アート散策をサポートします。



無料
ダウンロード
Free
Download



Android用
(GooglePlay)



iOS用
(Appstore)



たちかわ
Blend

ART × DAILYLIFE

極上空間と人が作り出す 映画愛あふれるまち。

1950年代、映画館が数多くあり、にぎわっていた市内。現在は形を変え、親子で楽しめるシネマコンプレックスから、独自世界に没頭できるミニシアターまで、さまざまな映画館があります。また、こだわりの音響・照明などで市民を楽しませています。



日々の生活に刺激を^{プラス} まちを彩る映画館

——— < 人に話したくなるかも!? 立川 今昔ヒストリー > ———

映画のまちの歴史を振り返ってみよう

昭和30(1955)年

市内には10館もの映画館があり、「映画のまち」と呼ばれていた。テレビがまだ普及していないこの頃、銀幕スターに人々は魅了された。



>>>

平成16(2004)年

究極の映画館を目指し、館内構造から音響、照明などに徹底的にこだわって設計された映画館が完成。



>>>

現在

立川駅南口にあった名画座をしのいで、立川名画座通り映画祭が開催されるようになる。また、ミニシアターやシネマコンプレックスなど、映画館の開館が相次ぐ。



立川ムービーの極

1

館内設備を活かした演出
「シネマシティ」

音楽ライブ用のスピーカーを導入するこだわりの映画館。シアターフロアは、音楽スタジオへと早変わり。「極上音響上映」と題した上映や、音とシーンにあわせた環境であなたを異空間へと誘います。また、スクリーンごとに違う照明がついている演出も魅力。

☎ 042-525-1251



立川ムービーの極

2

独自路線を貫く作品たち
「キノシネマ」

ミニシアター作品を中心に、世界各国の作品やファミリー向け作品を上映するミニシアター。駅チカで、百貨店内に併設されているため、お買い物帰りに気軽に立ち寄ることもできます。ゆったりとした鑑賞シートも人気アイテムのひとつです。

☎ 042-512-5162



立川ムービーの極

3

9スクリーン1,605席の映画館
「TOHOシネマズ 立川立飛」

2020年9月10日オープン

イマーシブ・サウンド・システム対応の「IMAX® デジタルシアター」、TOHOシネマズの独自規格「プレミアムシアター」、空気を震わせるサウンドを体感できる「轟音シアター」を導入。映像を通じた地域貢献を目指します。



VOICE

シネマのたまてばこ実行委員
山中 ゆう子さん に聞きました



Q. この活動の好きなところは？

A. 子育てしながら活動するママたちの前向きな姿に元気をもらえるところ。活動を通していろいろな出会いがあることです。

Q. 立川のおすすめスポットといえば？

A. 国営昭和記念公園。家族連れから高齢者まで、四季折々、さまざまな楽しみ方がありますね。

シネマシティと歩んだ13年
「シネマのたまてばこ」

「シネマのたまてばこ」は、平成19(2007)年から行われている子育て中のママ・パパのための上映会です。赤ちゃん連れでも映画館の大きなスクリーンで話題作を鑑賞できます。

VOICE

映画祭実行委員長
中村 能己さん に聞きました



Q. 立川の魅力は？

A. 文化施設、商業施設、大きな病院、エンタメ、公園や多摩川などの自然があり、ほかに行かなくても、わりとなんでも用事が済ませられるところですね。

Q. おすすめの飲食店は？

A. 「酒歩たから」。松本勲監督の短編映画「公衆電話」の舞台にもなっています。

かつての名画座をしのいで
「立川名画座通り映画祭」

「立川名画座通り映画祭」は、今年で6回目の開催となる自主製作映画の祭典です。昨年は全国からの100本以上の応募があり、最終日は300人以上の観客で立ち見も出るほどの盛況でした。